

平成28年度 保育所の自己評価

伊勢原愛児園

自己評価の観点	内容及び課題
基本方針と組織	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの最善の利益を考慮した保育の基本理念、基本方針、目標に沿って、子どもを主体とした日々の関わりや信頼関係の構築が出来た。 • 理念、基本方針、目標等は「入園のしおり」等に記載されているが、地域の実態や保護者の意向が反映出来ているかは検討の必要がある。
組織の運営管理	<ul style="list-style-type: none"> • 職員の福利厚生や健康の維持に取り組んだ。 • 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画がうまく機能しなかった。 • 人材の確保等、人事管理を積極的に行う必要がある。 • 実習生の受け入れ等に関しては積極的に行った。 • 地域との交流も積極的に行った。
適切なサービスの実施	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者のプライバシーには極力配慮した。 • 利用者の意見等には迅速に対応し、情報の提供も積極的に行った。 • 入園時等には細かに説明を行った。
子どもの発達援助	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 • 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている • 個々の子どもの発達段階や個人差への配慮等を共有するため、定期的に連絡会を設け話し合いを行った。 • 個々の関わりのお大切さと集団生活との兼ね合いの難しさも感じた。 • 子ども同士のトラブルに対しても、すぐに声を掛けるのではなく、子どもたちで解決できるよう援助していった。 • アレルギー対応等共通理解をしながら対応した。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> • 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、必要に応じて個別面談などを行ない、普段の子どもの様子を伝えるだけでなく、情緒の不安になっている子の 変化も伝えた。 • 一人一人の保護者と丁寧に関わることで信頼関係を築いていった。 • えんだよりに給食の献立等を載せることで保護者の要望にも応えた。 • 年度末に保護者アンケートを実施し、できるところから改善していった。 • 一時預かり保育では、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行った。
安全・事故防止	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月安全チェックリストに従い遊具等の点検を行い事故防止に努めた。 • 不審者の侵入時などに対応できるよう防犯訓練を年3回行った。 • 食中毒が起こらないよう細心の注意を払って対応した。

以上、保育士の自己評価を踏まえ、保育所の自己評価を行いました。
結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思ひます。